

SNW#21 シンポジウム、講演—3のレジメ
「次世代軽水炉新增設・リプレイスに向けた条件整備と提言」

2021. 9. 3.

エネルギー問題に発言する会・会長 金氏 顯

第 1 章 我が国の 1970 年代から 2000 年代初頭までの建設ラッシュ時代の苦難と成功体験

～米国技術導入し、早期に国産化、約 40 年掛けて 56 基建設しながら世界に冠たる技術を創り上げてきた。その技術は世界トップレベルとなり、多くの技術者と技能者を育成し、安価安定電力供給と二酸化炭素排出削減にも大きく貢献したことを振り返る。

第 2 章 2000 年代初頭より不祥事などにより暗転、2011 年東電福島第一事故以降原子力を取り巻く環境激変と原子力産業界の現状、課題

～しかし、2000 年代初頭より暗転し、2011 年東電福島第一事故発生。以降、原子力を取り巻く環境は激変し、今や我が国はその貴重な人材、技術力、サプライチェーン崩壊の環境にある。しかし、各メーカーは国内大型工事や海外プロジェクト、取替工事などで維持伝承、新技術開発に尽力している。

第 3 章 1990 年代後半～2010 年代の仏・米の失敗と中・ロ・韓、また 1970～2000 年代の日本の成功、それぞれの要因

～一方、1990 年代後半～2010 年代の仏・米の失敗と中・ロ・韓の成功、また 1970～2000 年代の日本の成功、それぞれの要因と教訓を下記報告書などから学ぶ。

OECD/NEA“Unlocking Reduction in the Construction Costs of Nuclear : A Practical Guide for Stakeholders” (July, 2020)”

第 4 章 国、規制委、電力、メーカー、産業界など関係者への提言

～そして、2050 年カーボンニュートラル達成の為に必要な次世代軽水炉 24 基建設の実現の為に各関係者への提言を纏める。

最後に、新增設初号機実現の為に最も重要な取組課題として次の 4 つを掲げる。

- ・国の原子力活用政策明確化
- ・規制の予見性確保
- ・サプライチェーン再構築
- ・投資資金調達方式構築